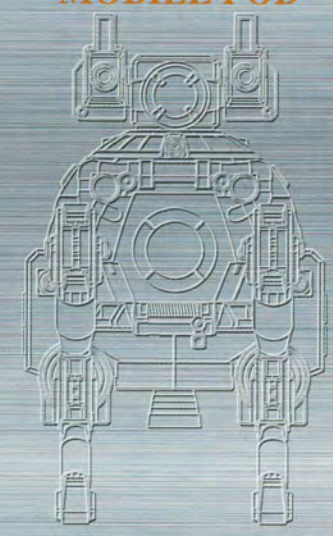




MOBILE POD
RB-79K

BALL

E.F.S.F. MASS-PRODUCTIVE
MIDDLE-RANGE SUPPORT
MOBILE POD



MG
MASTER GRADE

地球連邦軍
量産型中距離支援モビルポッド
RB-79K「ボール(第08MS小隊版)」
1/100スケール
マスターグレードモデル

RB-79K BALL

E.F.S.F. MASS-PRODUCTIVE MIDDLE-RANGE SUPPORT MOBILE POD



地球連邦軍
量産型中距離支援モビルポッド
RB-79K「ボール(第08MS小隊版)」
1/100スケール
マスターグレードモデル

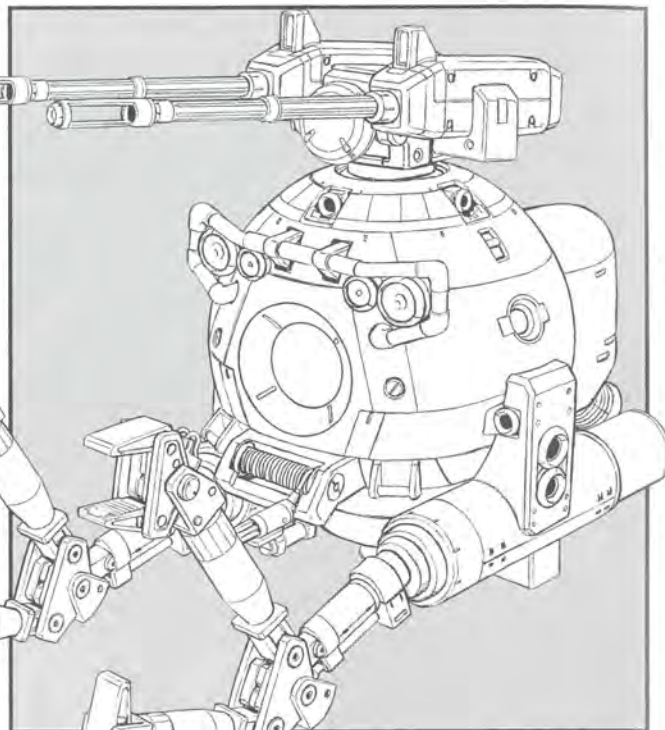
BANDAI 2005 MADE IN JAPAN



0134096

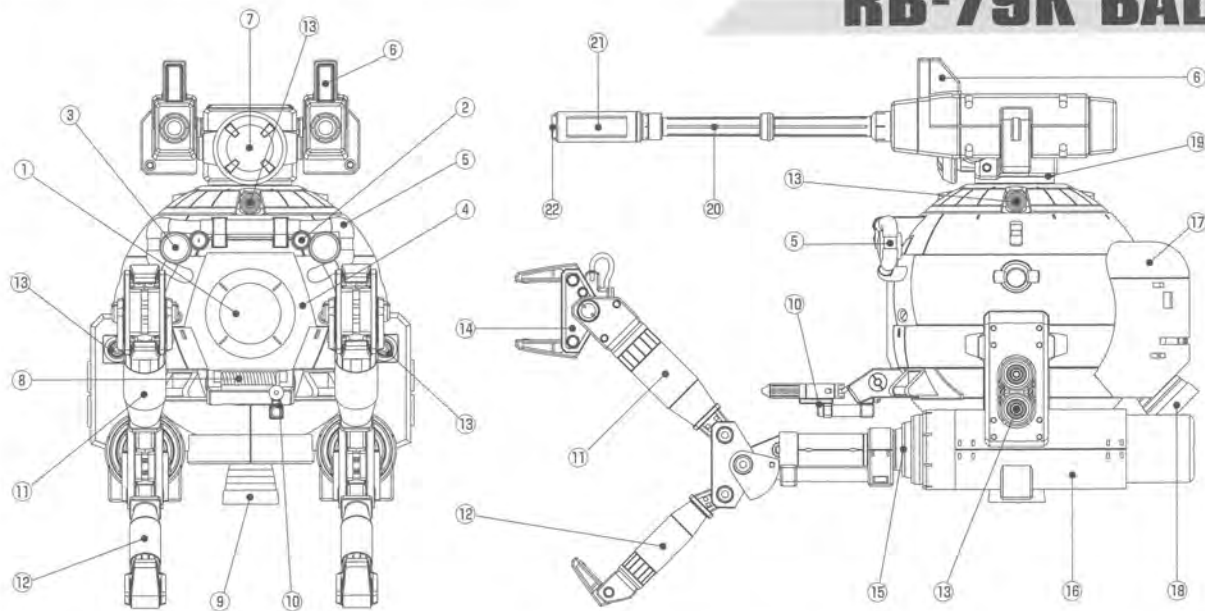
RB-79K BALL

「ボール」は、熱核反応炉やビーム兵器などは装備しておらず、その名の通り、球形のコントロールブロックに2本のマニピュレーターと大型キャノン砲などを装備したワンマンボッドに過ぎない。実際、本機はもともと空間作業用に使用されていた民生品のスペースボッドSP-W03の基本設計を流用したものである。コクピット周りの構造を「戦闘レベル」まで強化するためトラスフレームで覆い、パイロットの生存性を向上させている。それに燃料電池やプロペラントタンクなどを追加した上で、必要十分な装甲を施したというものである。機体制御は機体全体に配置されたサブスラスタで行う。これは、一種の指向性爆薬に近い個体燃料ペレットを爆発的に燃焼させることで、瞬間的に大推力を発生するシステムで、燃料の消費は激しいものの、メインスラスタを使わずに機体を自在に移動できる利点があった。U.C.0079年6月にはプロトタイプが完成し、テストに並行して量産が行われ、ソロモンおよびア・バオア・クー攻略戦では1000機以上が参戦し、ほぼ期待通りの戦果をあげている。また、ボールは「RX計画」立案の時点でRX-76として提案されていたものに着想を得ているとも言われている。実際にRB-79がRX-76計画に則ったものであったかどうかは不明だが、既存の車両や航空機が軍事転用された例は枚挙に暇がないことも事実である。AMBAC機動もビーム兵器のドライブも不可能ではあるものの、帰還後の機体冷却のための設備などが不要であり、RB-79のみであれば、軽武装艦や只の輸送艦も空母として運用できたのである。無論、民生品の生産ラインを流用できることも最大のメリットであった。中でもRB-79Kは、最も初期に生産されたタイプのひとつであり、10月の段階ですでに配備されていた。一年戦争中期における連邦軍の対MS戦力は、本機と宇宙戦闘機、宇宙歩兵のみであったといっても過言ではない。ただし、宇宙戦闘機はもっぱら一撃離脱の戦術で運用されるため、近接戦闘においては本機の方が優れていたとも言える。なかには、この機で相打ちながらもザクを撃破したパイロットもあり、両手のついた単なる「砲艦」ではないことを証明してみせたのである。



Conceptual illustration : Katoki Hajime

RB-79K BALL



- | | | | |
|-----------|----------------|-------------|------------|
| ①キャノピー | ⑦レドーム | ⑬サブスラスタ | ⑱メインスラスタ |
| ②ヘッドライト | ⑧ウインチ | ⑭クランプヘッド | ⑲ターレット |
| ③サーチライト | ⑨ボトムメインスラスタ | ⑮テレスコピックブーム | ⑳バレル |
| ④コクピットハッチ | ⑩アンカーディスチャージャー | ⑯ブームシリンダー | ㉑フラッシュハイダー |
| ⑤ロールバー | ⑪メインアーム | ⑰バックバックカバー | ㉒マズル |
| ⑥センサー | ⑫サブアーム | | |

注) この機体は、U.C.0079年2月13日の「V作戦」の正式立案を待たずに検討された「空間戦闘能力回復のための覚え書き」に基づく「民生品の転用および武装化案」によって調達されたモデルである。同年6月前後にはプロトタイプが完成しており、それから数ヶ月の期間で相当数がMSパイロットの育成や軍施設の造営、荷役、運搬などに使用されていた。

注意

お買い上げのお客様へ必ずお読みください。

- 本商品の対象年齢は15才以上です。対象年齢未満のお子様には絶対に与えないください。
- 小さな部品がありますので、小さなお子様が誤って飲み込まないように注意してください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 尖った部分や鋭い部分がありますので、取り扱いや保管場所に注意してください。思わぬケガをする恐れがあります。

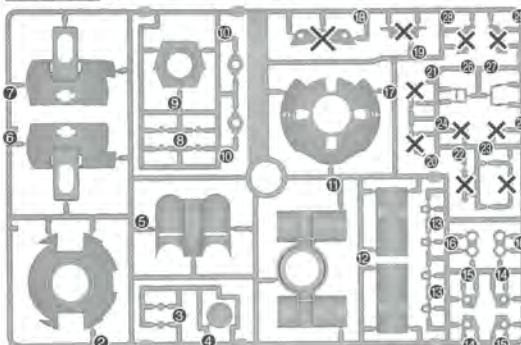
【組み立てる時の注意】

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- 尖った先端や薄い線端部に触れながらの組み立てには十分ご注意ください。
- ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

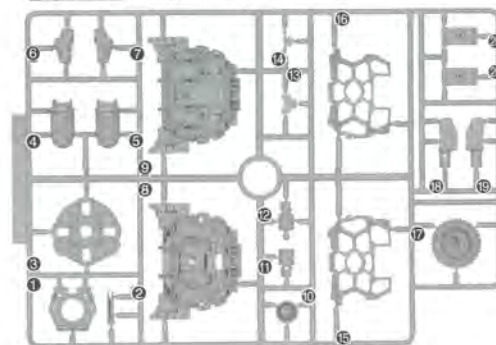


パーツリスト (×印は使わないパーツです。)

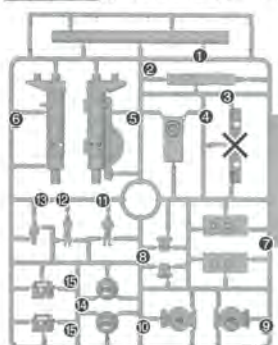
Aパーツ (スチロール樹脂: PS)



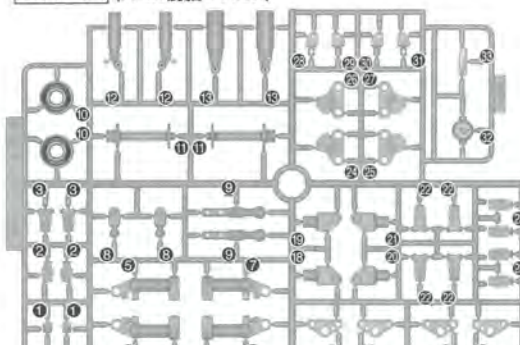
Bパーツ (ABS樹脂: ABS)



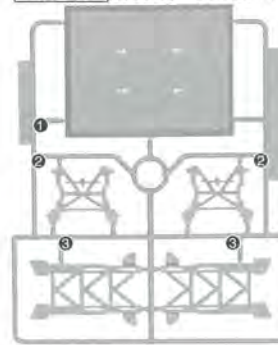
Cパーツ (スチロール樹脂: PS)



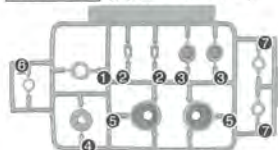
Dパーツ (ABS樹脂: ABS)



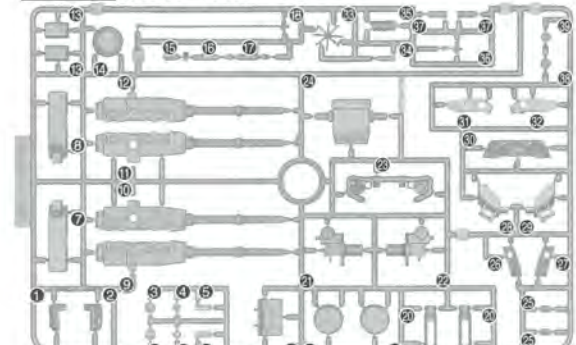
Eパーツ (スチロール樹脂: PS)



Fパーツ (合成ゴム: TPE)



Gパーツ (スチロール樹脂: PS)



マーキングシール……1枚
ガンダムデカール……1枚
金属シャフト……2本
リード線……1本
(塩化ビニル樹脂: PVC)

組み立て前の基本説明

必要な道具

〈ニッパー(プラスチック用)〉
・パーツをランナーから切りはなしてゲートを取るのに使います。

〈ピンセット〉
・小さい部品を取り付けたりシールを貼るのに便利。



〈はさみ〉
・ガンダムデカールを切りはなす際に使用します。

※この商品に道具類は入っていませんので、別にご用意ください。

説明書の見かた。

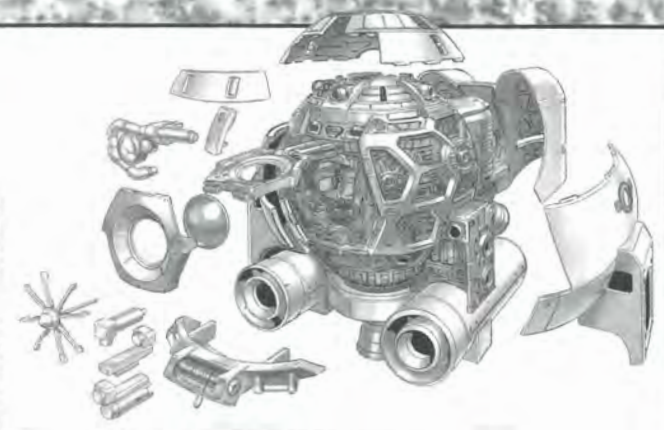
説明書のパーツに書いてある番号と同じものをランナーから探しましょう。(パーツリスト表と合わせて見ると、探しやすいでしょう。)

1 [ボディの組立] 1) BODY UNIT



BODY UNIT [ボディ]

RB-79系、いわゆる“ボール”は、RGM-79ジムとの連携を前提とする、ハイ・ロー・ミックス思想に基づいたスペックの達成が第一義とされていた。すなわちジムに随伴する支援MSである。そのボディは、その目的のみを達成するために無駄を排除した、非常にストイックなものであった。RB-79のボディユニットは、原型とされるSP-W03とは大幅にサイズが異なっているように見受けられるが、実際には、コクピットブロックや生命維持装置、制御機器などはほぼそのまま流用されている。つまり、原型機のメインフレームを、トラス構造や高機動バーニアスラスタシステム、そして最終装甲などが取り巻いているだけなのである。無論、それによって増加した自重に応じてマニピュレーターやメインスラスタなどは大型化されたが、それらにしても規格品を大型のものに換装しただけで済んでいる。主電源装置である出力400kwの燃料電池や機体制御用のベレット式ロケットモーターなどを始めとして、基礎OSにもほとんど手は加えられていない。実の所、“ボール”としての運用に際しても、基本プログラムに機能拡張やアプリケーションをいくつか追加するだけで必要十分な性能を発揮したと言われている。これらのハード及びソフトの検証は、RB-79Kが運用されていた時期にも続けられており、“ボール”は更なる高性能化(あるいはコストダウン)に向けた進化を続けていたのである。ちなみにRB-79Kは、シロー・アマダ少尉が乗り、戦果を挙げた事例から、後の機体よりも装甲や武装が強力な堅牢であったとする説もあったようだ。

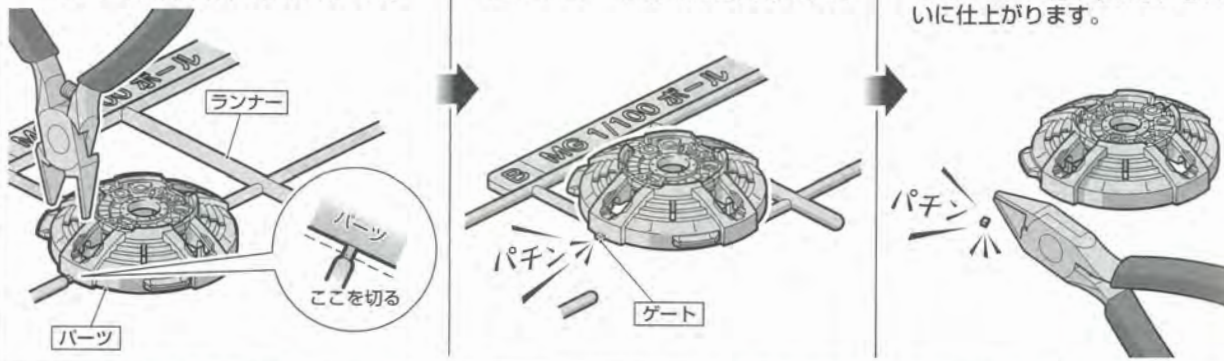


パーツの切り取りかた。

①まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。

②パーツを切り離して持ちやすくなったところでゲート跡の処理に入ります。

③ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。



ガンダムデカールの貼りかた。

①ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。

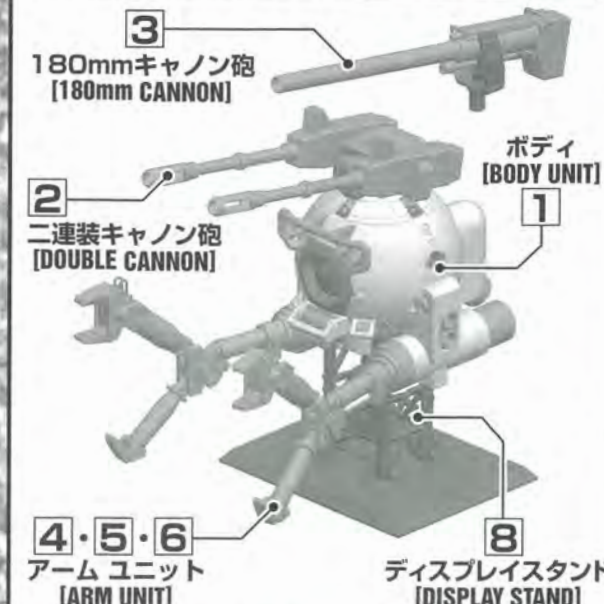


②保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、すれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

③シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。

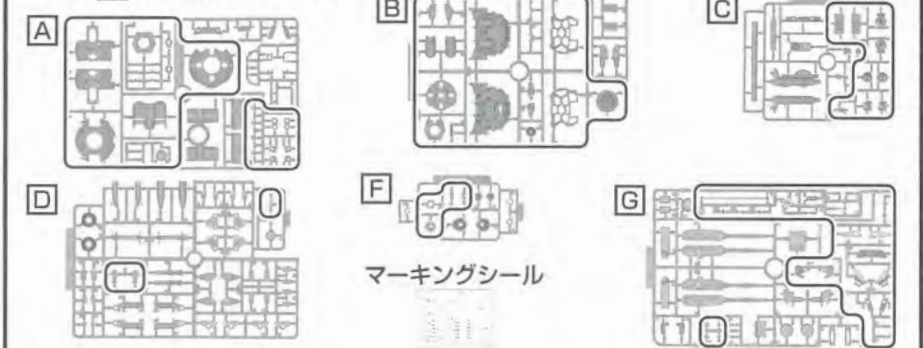
説明書をよく読んで完成させましょう。



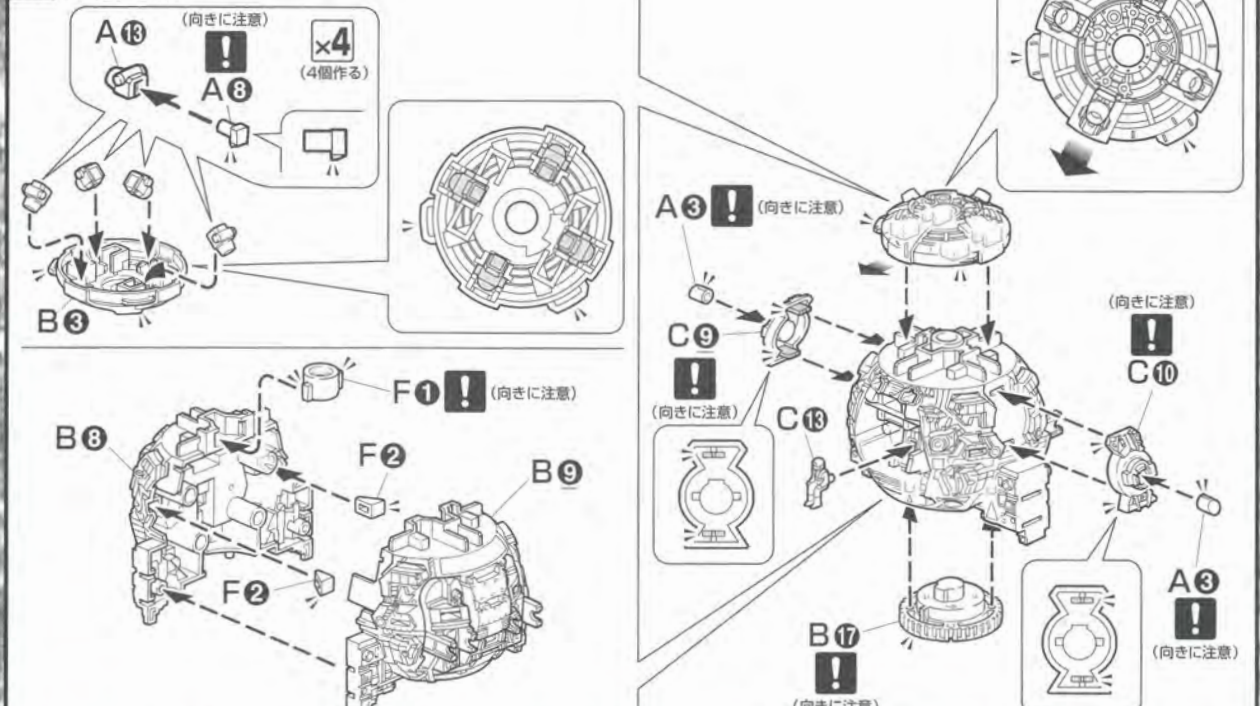
1 BODY UNIT

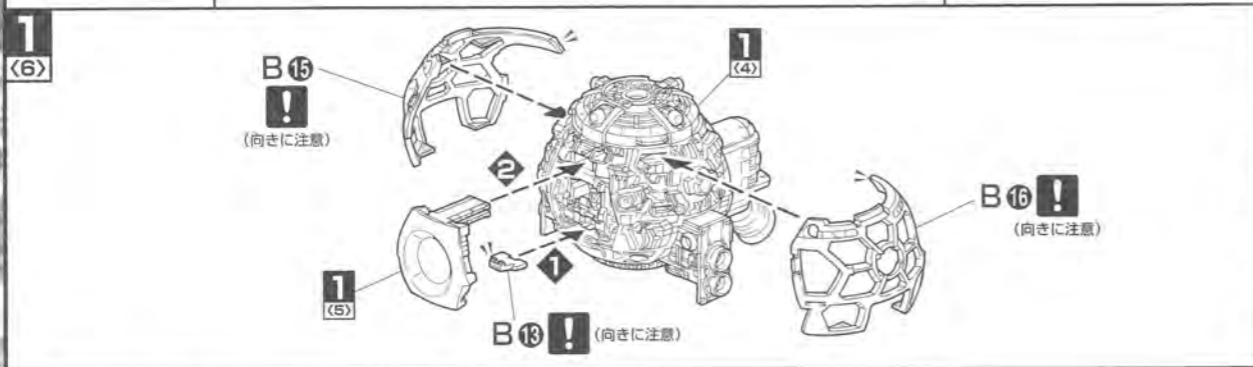
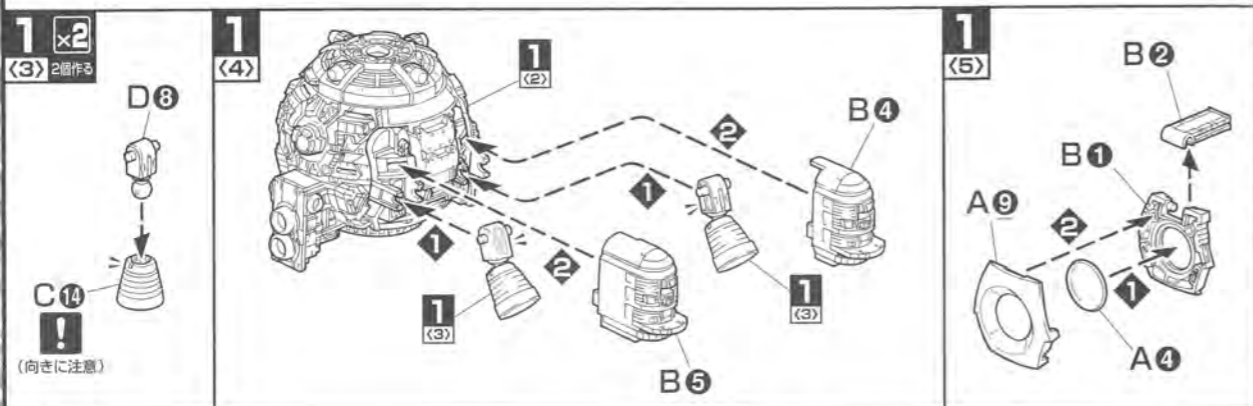
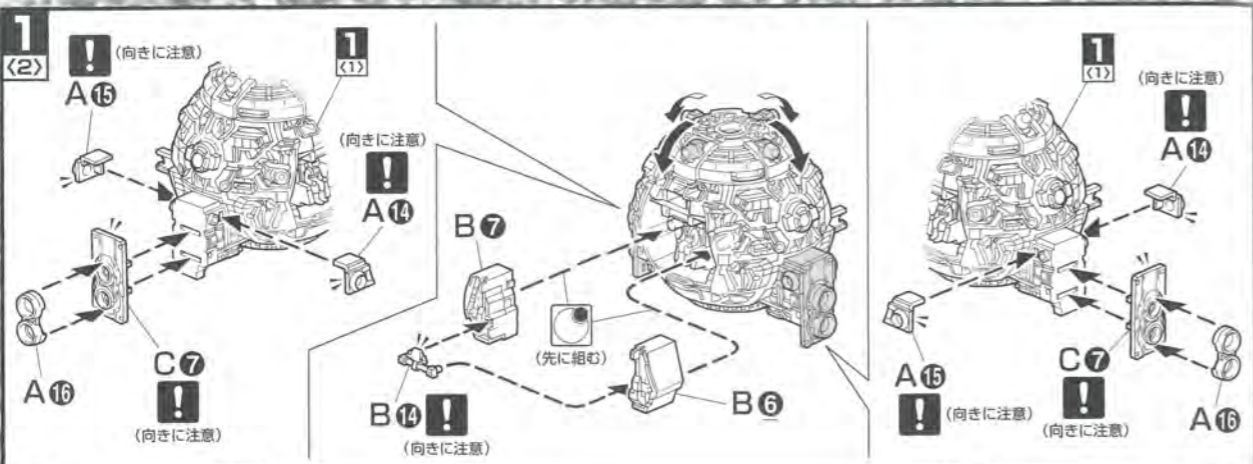


・組立1で使用するパーツ

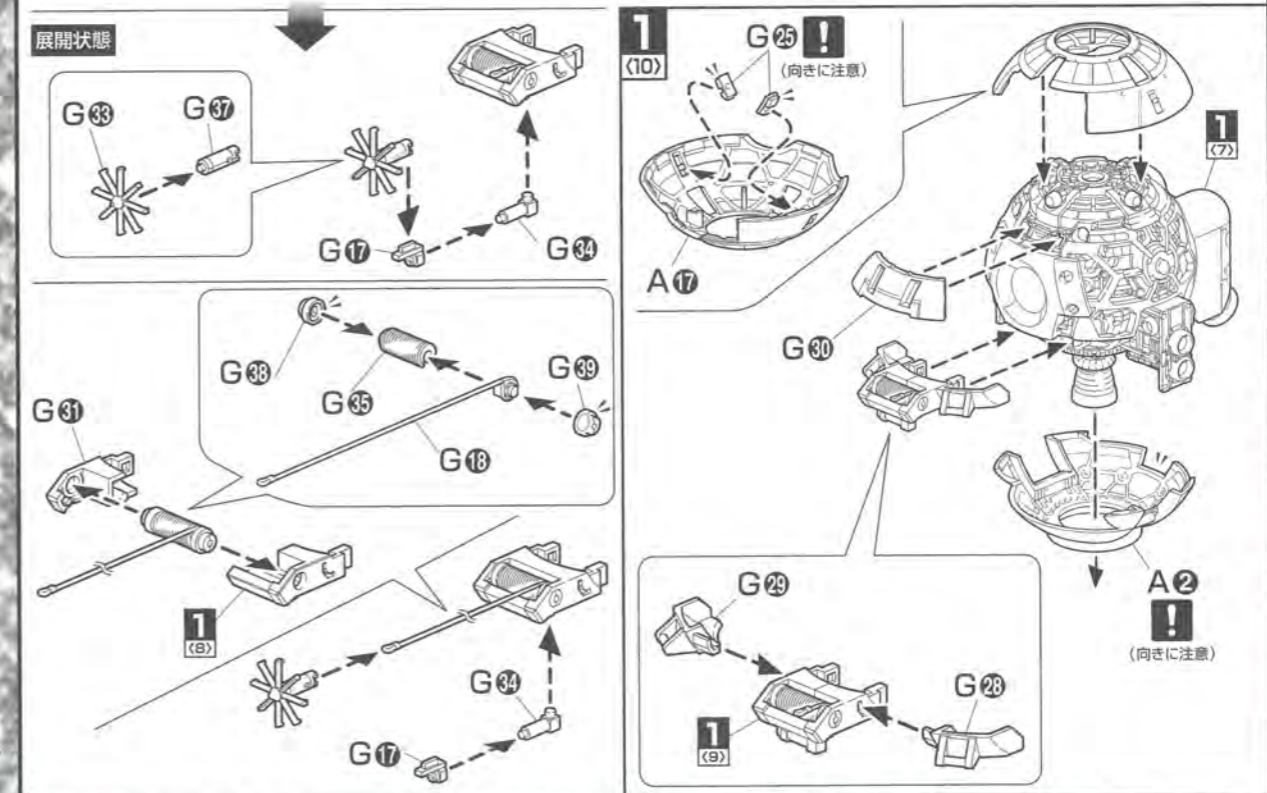
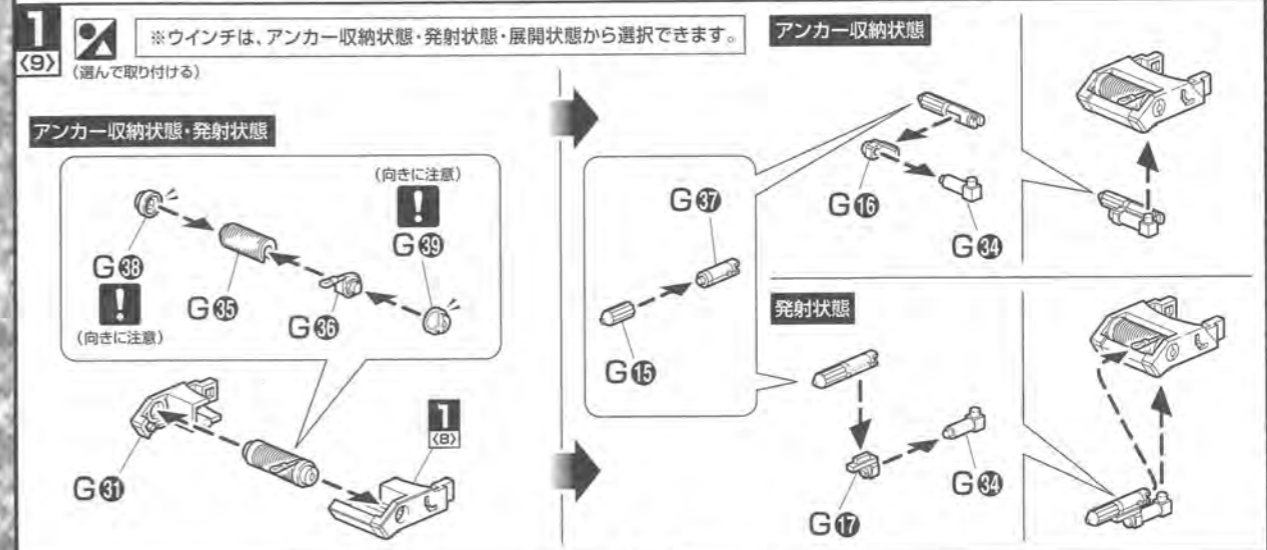
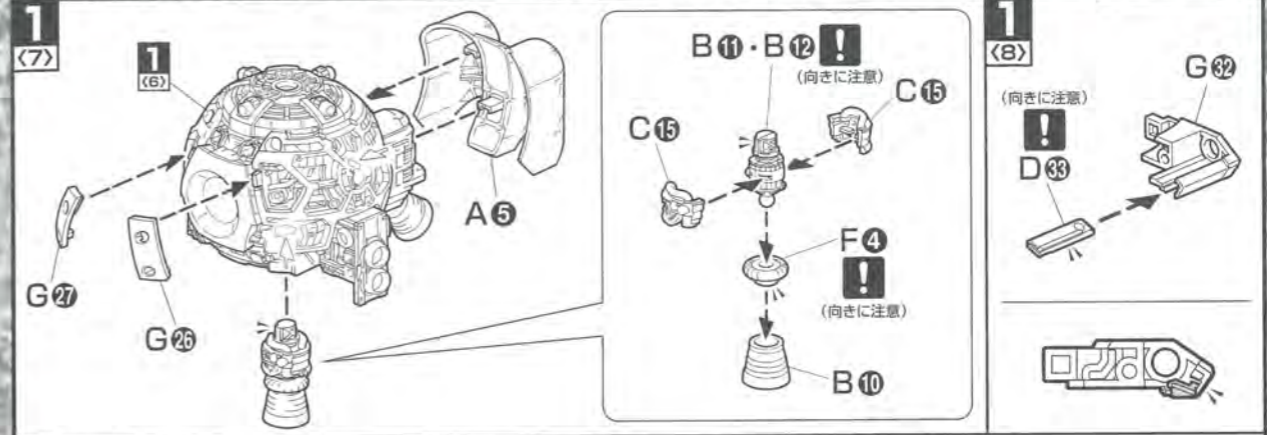
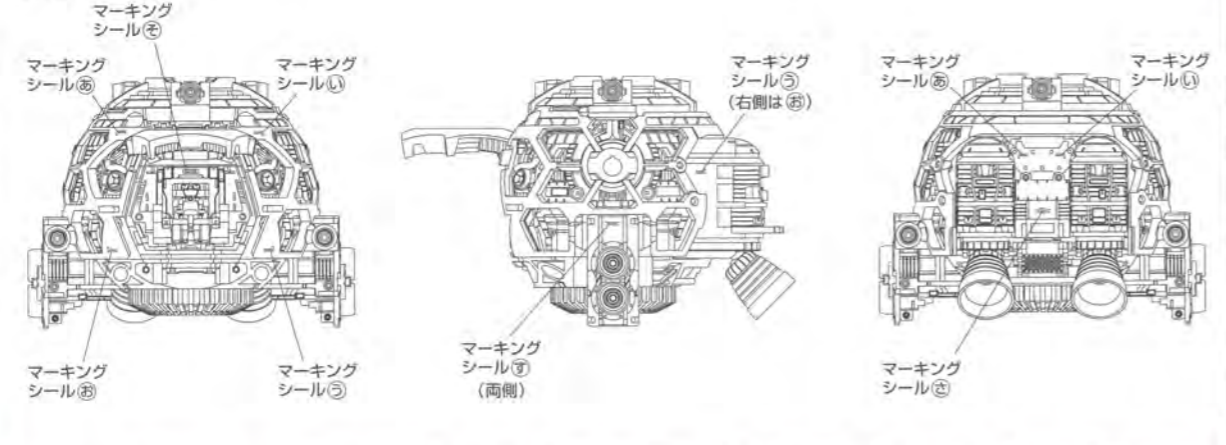


1 [ボディの組立] 1) BODY UNIT





【ボディに貼るシール】
SEAL



GO TO THE RESCUE OF GM

U.C.0079年10月6日。地球に降下する兵士たちを乗せた連邦軍の輸送艇が軌道上を航行していた。その中には激戦地に展開する「コジマ大隊」に新たな小隊長として赴くシロー・アマダ少尉の姿もあった。と、戦艦の閃光が艦を切り裂いた。「確かに救援信号が出ている」友軍のジムとザクが戦っていた。兵たちが浮き足立つなか、シローは毅然と言った。「支援に向かいますよ」「こいつでは戦闘支援なんて無理だよ少尉」艇長であるロルフ・セガン少尉は難色を示す。「乗船の時見ました。ボールがありましたね」「一応、フィフティーンキャリバーは付いているけど」コ・バイの女性士官エレン・ウィラード少尉の答えにシローは意を決した。「行くというのかね?」「はっ、ぜひやらせて下さい!」ボールを起動しながら、その間の中でシローはふと物思いにふける。「味方が死ぬのをただ見てるなんて……」そこにロルフ少尉からの通信が入る。「準備はいいか?」「ハイッ」エレン少尉が続ける。「ハッチを開きます」「いつでもどうぞ」暗闇にライトをきらめかせ、オレンジの機体が離床する。



GOES IN THE DARK

「いま離脱した」輸送艇から離れたシローは、周辺に浮遊する残骸に身を潜め、それを目隠しとしてザクの背後に回り込む。「どこだ、どこに行った……いた!」ザクを見つけたシローは、残骸になりきってその背後に忍び寄る。「動くなよ……」その時、周囲を警戒していたザクは、一瞬早くシロー機を発見するや、ザク・マシンガンで連射する。「うおお!!」さっきまで盾だった残骸をザクに投げつけ、被弾しながらもシローはザクに向けウインチのアンカーを射出する。そして、ワイヤーでザクを巻き込みながらジムに避難を呼びかける。「ボール!?」ジムのパイロットのサンダース軍曹は驚きを隠しもせずに応える。



WIRE WORK

「動けるなら退避しろ! 月面8時の方向に輸送艇が待機している!」船影を認めたサンダースだったが、しかし無謀な戦いを繰り広げるボールを見捨てるわけにはいかない。「そんなものでは無理だ、俺に構うな!」その答えにシローはますますいきり立つ。「強がりや言うな!! 早く行け!!」シローがそう言う間にも、ザクはワイヤーでがんじがらめにされていった。さらにシローはウインチを巻き上げ、ザクのボディを締め上げる。「さあ、動けまっ!!」もつれ合いながらもシローは2門の砲でザクの頭部に狙いをつける。しかし、ザクはワイヤーから左手を引き抜き、腰のホルダーからヒート・ホークを取り外して構えると、その刃が見る見る赤熱化してゆく!!「ぐっ、もつか?」ボールは右のマニピュレーターでザクの左手を辛うじて抑えるもの、ジワジワと押し負けていく。シローはこの窮地を脱することができるのか?!

CUSTOM MODEL キミだけのカスタムモデルに仕上げよう!!

こんなサメの歯をイメージした個性的なマーキングのボールもある!!

01 機動戦士ガンダム 第08MS小隊

02 GUNDAM EVOLVE../11

03 機動戦士ガンダム MS IGLOO 1年戦争秘録

© 創通・サンライズ

■ハードなイメージの再現に挑戦してみよう!!

第08MS小隊・MS IGLOO等、数多くの映像媒体で活躍するボール。その迫力あるオリジナルマーキングやウェザリング、バトルダメージ等を参考に、よりハードなイメージをプラモデルに注ぎ込もう。

PAINTING

※よりリアルに仕上げたい場合は、下の基本色をご覧ください。
※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

- このキットをよりリアルに塗装したい場合は、(株)GSIクレオスより発売のガンダムカラー (MG ボール (第08MS小隊版) 用、その他カラーセット) をお使いください。
 - ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお控えください。
- 本体等オレンジ部の塗装色。
オレンジ (50%) + イエロー (30%)
+ ホワイト (10%) + ブラック (10%)
※またはガンダムカラー-オレンジ4
 - アーム、キャノン等グレー部の塗装色。
グレー (70%)
+ ホワイト (30%)
 - ウインチ、ワイヤー等ダークグレー部の塗装色。
グレー (90%) + ブラック (5%)
+ ネービーブルー (5%) + ブルー少量
 - コクピットハッチ等レッド部の塗装色。
モンザレッド (100%)
※またはガンダムカラー-レッド1
 - 内部メカ等ダークグレー部の塗装色。
ミッドナイトブルー (100%)
+ ホワイト少量

ワンポイントステップ

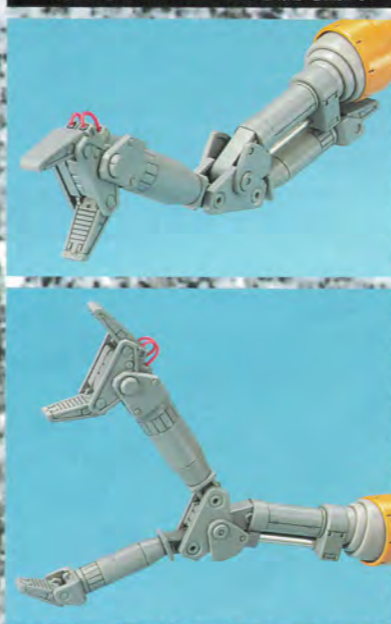
コクピットハッチなど、スミを入れてみよう!!
ガンダムマーカースミ入れ用 (別売り) などを使用して、ミゾの所に線を引きこめて、模型が引き締まります。



REAR VIEW



▼ 特徴的なサブアームは展開可動式。

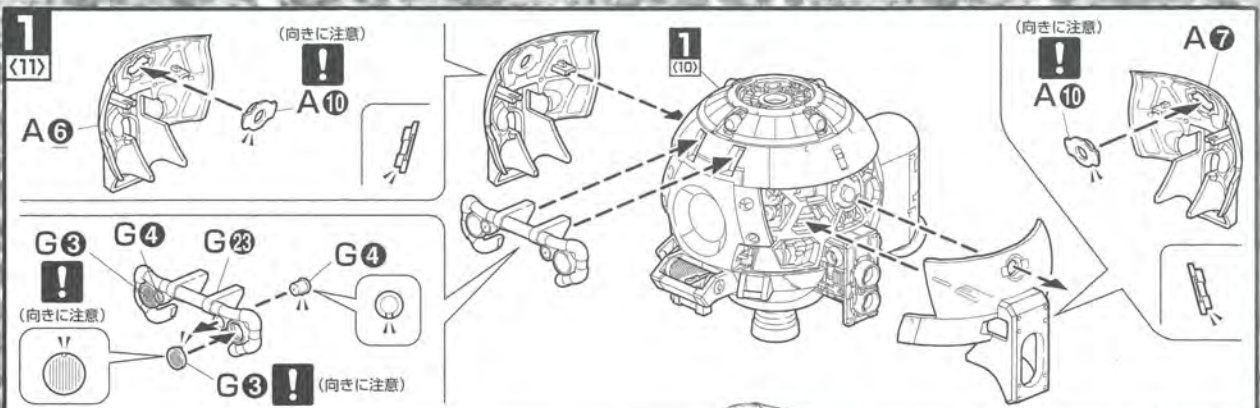


▲ 正面にクリアーパーツを使用したコクピットハッチは、開閉可動式。内部にはコクピット、パイロットを再現。



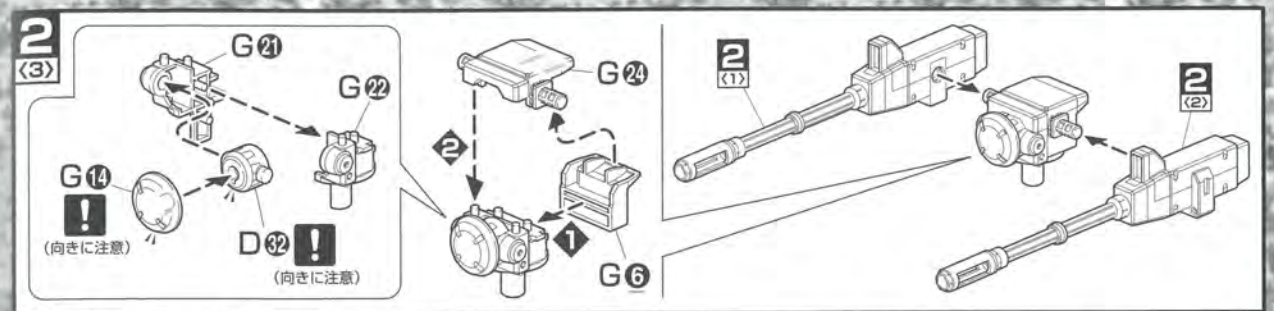
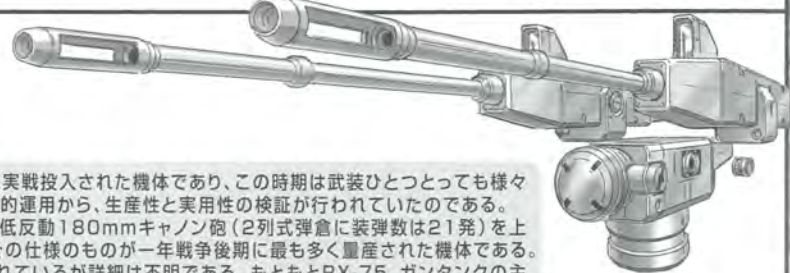
▲ ウインチは差し換え式でアンカーの展開を表現。

▲ コアフレームの上にトラスフレームを左右からかえこむ構造の内部フレームを再現。

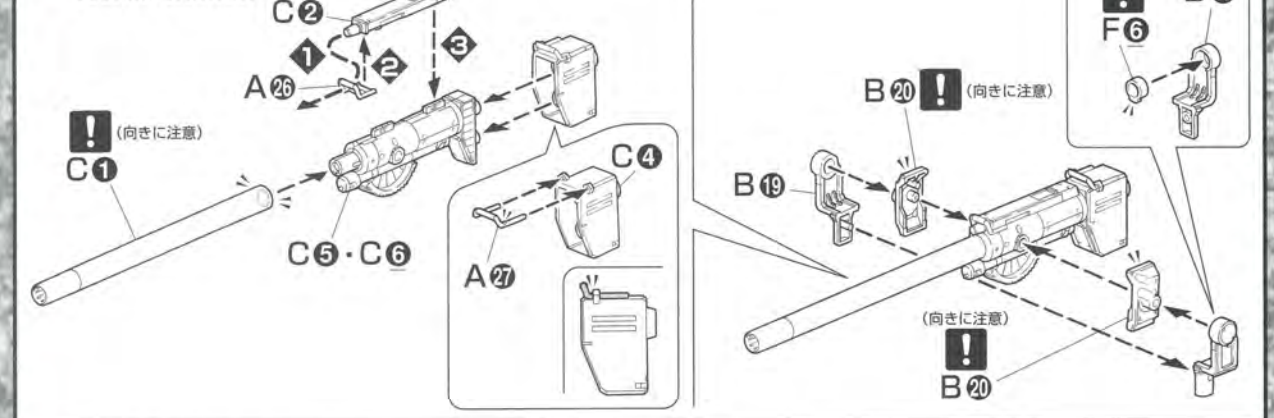


WEAPONS 【武器】

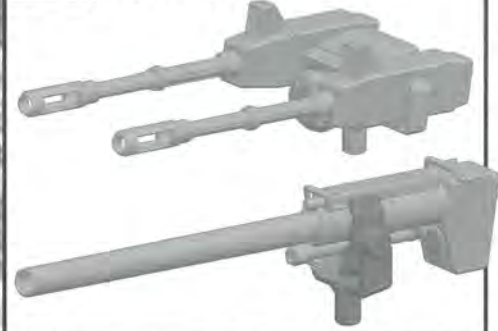
RB-79Kは、いわゆる“ボール”の内で最初期に実戦投入された機体であり、この時期は武装ひとつとっても様々な試行錯誤が繰り返されていた。これらによる試験的運用から、生産性と実用性の検証が行われていたのである。“ボール”の武装として最も認知されているのは、低反動180mmキャノン砲(2列式弾倉に装弾数は21発)を上部回転ターレットに装備したタイプだろう。実際、その仕様のものが一年戦争後期に最も多く量産された機体である。調達の問題から120mm砲搭載機もあったと言われているが詳細は不明である。もともとRX-75 ガンタンの主砲を搭載した試作機がRX-76であるという説もあり、当初から強力な長距離砲を1門のみ装備するという難型があったことはほぼ確定していると見られている。ただし、開発当初の案件として、いくつかのバリエーションが検討されていたことは言うまでもない。RB-79Kに装備された“15(フィフティーン)キャリバー”は、二連装のキャノン砲で、輸送艦の護衛機に採用されていた。ちなみに、この15キャリバーは、ゼロ距離射撃も可能であったようだ。RB-79Kの15キャリバーは、180mmキャノンと表記され、様々な物議を醸したこともある。



3 【180mmキャノン砲の組立】 180mm CANNON



23 WEAPONS



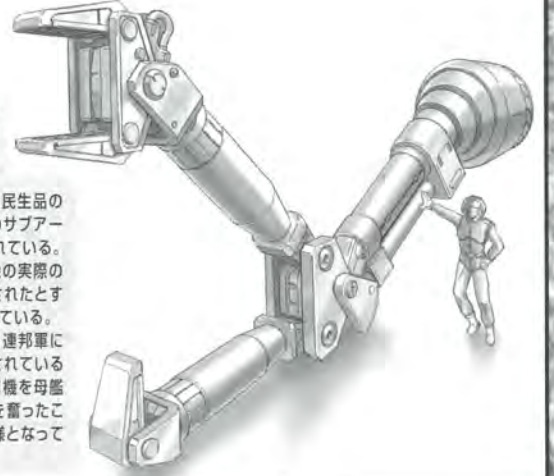
・組立2・3で使用するパーツ



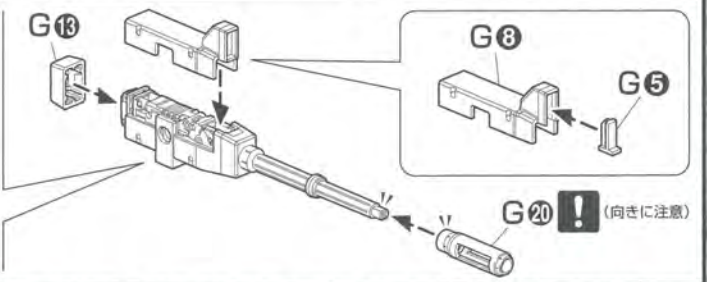
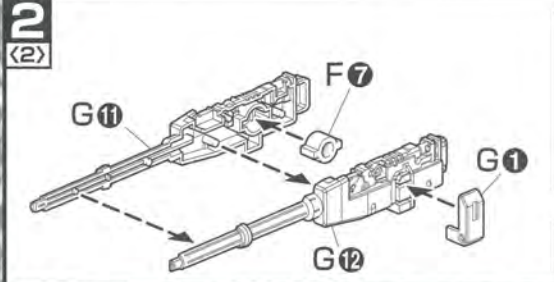
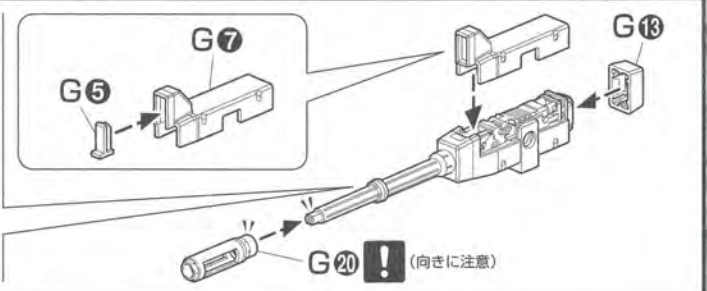
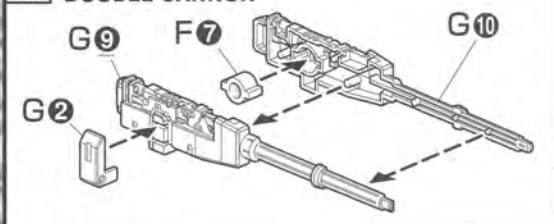
ARM UNIT 【アームユニット】

RB-79系の機体の最大の特徴は、一対のマニピュレーターである。旧世紀の原始的な地表往還機が装備する“ロボット・アーム”にも似たその装備は、しかし、格段の進化と発展を遂げた最先端の装備でもあった。ボールの設計ベースは宇宙作業用ワゴンボットである。パイロットは直接目視とモニターカメラを併用して操縦を行う。マニピュレーターの出力は540hpで、実際に作業ポッドとしての使い勝手も上々であったようだ。また、機体がベース機よりも幾分大型化されたため、民生品の規格として1クラス上の作業能力が付加されることとなった。つまり、より大きな荷物を運ぶためのサブアームである。先行量産された機体にサブアームが装備されているものが多いのはそのためだといわれている。実際、本格的に量産された機体はサブアームがオミットされている場合が多い。これは、先行量産機の実験的運用を通じての検証によって不要だと判断されたとする説と、とにかくコストを下げるために排除されたとする説があり、おそらくはその両方であったのだろう。あるいは生産拠点による異なるとも言われている。

あくまで“ジムの支援用”として開発されたボールは“簡易MA”であったとする見解もあるが、連邦軍における分類はあくまでも“MS”であった。これは、MSによる戦術が確立する以前であったためとされているが、元々MSの出自自体が宇宙用の作業機器である。実際の前線において、この“一対の腕”は、自機を母艦に固定するために、あるいは僚機に装備を渡すために、または敵MSを拘束するために、その腕を賣ったことは間違いなさだろう。ちなみに、連邦系MSのアクチュエーターはフィールドモーターが標準仕様となっているが、ボールに採用されているものは既存の作業機器の同等品であることは言うまでもない。



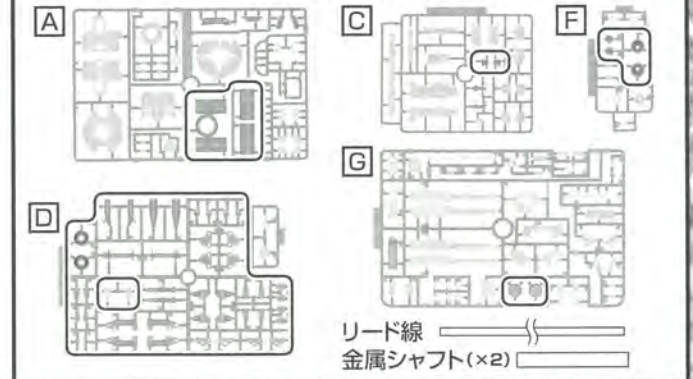
2 【二連装キャノン砲の組立】 DOUBLE CANNON



456 ARM UNIT



・組立4・5・6で使用するパーツ



4 [アームユニットの組立] ARM UNIT

4 (1) **ARM UNIT**

4 (2)

4 (3)

4 (4)

4 (5)

4 (6) ※各パーツは、向きに注意して組み立てます。

5 (1)

5 (2)

5 (3)

5 (4)

5 (5)

5 (6) ※各パーツは、向きに注意して組み立てます。

6 (1) x2 (2個作る)

6 (2)

6 (3)

7 FINAL ASSEMBLE

2 で作った二連装キャノン砲
3 で作った180mmキャノン砲
1 で作ったボディ
6 で作ったアームユニット

(選んで取り付ける)

※C①・C②は好みの場所に飾ってください。

※アームユニットは前後にスライドします。(両側動かす)

8 DISPLAY STAND

・組立**8**で使用するパーツ

8 [ディスプレイスタンドの組立] DISPLAY STAND

E③ (向きに注意)
 E② (向きに注意)
 E① (両側組む)

Seal (シール)

下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

- ### ガンダムデカールの貼りかた。
- 転写するマークを大きめに切り取ります。
 - 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
 - シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすり取ります。

このマーキングシール及びガンダムデカール指示は一例です。イメージに合わせてお貼りください。

アンカー

右側面

ガンダムデカール① (両側)
 マーキングシール②
 マーキングシール③
 マーキングシール④
 マーキングシール⑤ (右腕は⑤)
 マーキングシール⑥ (右腕は⑥)
 マーキングシール⑦
 マーキングシール⑧
 マーキングシール⑨ (両腕)
 マーキングシール⑩ (右腕は⑩)
 マーキングシール⑪ (右腕は⑪)
 マーキングシール⑫ (右腕は⑫)
 マーキングシール⑬ (両腕)
 マーキングシール⑭ (右腕は⑭)
 マーキングシール⑮ (右腕は⑮)
 マーキングシール⑯ (右腕は⑯)
 マーキングシール⑰ (右腕は⑰)
 マーキングシール⑱ (右腕は⑱)
 マーキングシール⑲ (右腕は⑲)
 マーキングシール⑳ (右腕は⑳)
 マーキングシール㉑ (右腕は㉑)
 マーキングシール㉒ (右腕は㉒)
 マーキングシール㉓ (右腕は㉓)
 マーキングシール㉔ (右腕は㉔)
 マーキングシール㉕ (右腕は㉕)
 マーキングシール㉖ (右腕は㉖)
 マーキングシール㉗ (右腕は㉗)
 マーキングシール㉘ (右腕は㉘)
 マーキングシール㉙ (右腕は㉙)
 マーキングシール㉚ (右腕は㉚)
 マーキングシール㉛ (右腕は㉛)
 マーキングシール㉜ (右腕は㉜)
 マーキングシール㉝ (右腕は㉝)
 マーキングシール㉞ (右腕は㉞)
 マーキングシール㉟ (右腕は㉟)
 マーキングシール㊱ (右腕は㊱)
 マーキングシール㊲ (右腕は㊲)
 マーキングシール㊳ (右腕は㊳)
 マーキングシール㊴ (右腕は㊴)
 マーキングシール㊵ (右腕は㊵)
 マーキングシール㊶ (右腕は㊶)
 マーキングシール㊷ (右腕は㊷)
 マーキングシール㊸ (右腕は㊸)
 マーキングシール㊹ (右腕は㊹)
 マーキングシール㊺ (右腕は㊺)
 マーキングシール㊻ (右腕は㊻)
 マーキングシール㊼ (右腕は㊼)
 マーキングシール㊽ (右腕は㊽)
 マーキングシール㊾ (右腕は㊾)
 マーキングシール㊿ (右腕は㊿)

ガンダムデカール① (両側)
 ガンダムデカール②
 ガンダムデカール③
 ガンダムデカール④
 ガンダムデカール⑤
 ガンダムデカール⑥
 ガンダムデカール⑦
 ガンダムデカール⑧
 ガンダムデカール⑨
 ガンダムデカール⑩
 ガンダムデカール⑪
 ガンダムデカール⑫
 ガンダムデカール⑬
 ガンダムデカール⑭
 ガンダムデカール⑮
 ガンダムデカール⑯
 ガンダムデカール⑰
 ガンダムデカール⑱
 ガンダムデカール⑲
 ガンダムデカール⑳
 ガンダムデカール㉑
 ガンダムデカール㉒
 ガンダムデカール㉓
 ガンダムデカール㉔
 ガンダムデカール㉕
 ガンダムデカール㉖
 ガンダムデカール㉗
 ガンダムデカール㉘
 ガンダムデカール㉙
 ガンダムデカール㉚
 ガンダムデカール㉛
 ガンダムデカール㉜
 ガンダムデカール㉝
 ガンダムデカール㉞
 ガンダムデカール㉟
 ガンダムデカール㊱
 ガンダムデカール㊲
 ガンダムデカール㊳
 ガンダムデカール㊴
 ガンダムデカール㊵
 ガンダムデカール㊶
 ガンダムデカール㊷
 ガンダムデカール㊸
 ガンダムデカール㊹
 ガンダムデカール㊺
 ガンダムデカール㊻
 ガンダムデカール㊼
 ガンダムデカール㊽
 ガンダムデカール㊾
 ガンダムデカール㊿

※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。